

(市立造船工業)・市工・修道・宗徳・山陽・広陵・松商・電学の男子校と、広島一県女・広島二県女・市女・女子商・比治山・安田・山中高等師範付属・進徳・安芸等の高等女学校である。集結した学校二十二校、生徒全員で六千二百名であつた。全員が整列し陸軍将校の訓示を受ける。

『戦局は急を告げている。敵機は本土無差別絨(じゅうたん)毯爆撃を開始した。木造の家屋は火災に弱い。『軍都広島』も木造の建物が多いため火災に弱い。軍都広島を空襲の火災より守る為、防火道路の建設を諸君に要請する。』

防災は、国家百年の大計である。防火道路の規模は、白神神社境内南を中心とした南北百メートル・東西五キロメートルである。

非常に大きな作業であるが早急に完成させてほしい。

この地は「神武天皇」が日向より東征の時、まだ岩礁で白い波を立てていた。(その岩礁は現在も存在している)そこで舟の難破を避けるための社が「白神神社」と呼ばれる。神武天皇上陸地は「鏡津神社」である。

『「神武の東征」は此の地より始まり『君達の偉業』も此の地より始まる』と。

如何に非常時と言えども、突然非常に大きな作業が命ぜられ「学徒」一同啞然(あぜん)とした。

しかし具体的な展開方法についての指示は無い。各学校より先生も参加しておられたが、これもまた突然の事で具体的指示が示されなかつた。

時間が経過して行く。具体的な展開を決めなければ解散も出来ない。

私は「各学校の最上級生集合してほしい」と各学校の代表者を集める。市立造船工業には三年生はいたが、三年生のいる学校は少なく二年生・一年生が代表として、白神神社本殿の南西の角にあつた神社の由緒書きの前で討議を開始した。

余りの大事業であるので、何処からどのように展開するか、各学校は何処からどのようにするのか、何時まで討議しても結論が出ない。

私が「何時まで討議しても、結論は出ない。作業範囲を決めよう」と提案。

「どうやって決めるのか」と各校代表が質問する。

私は「この電車で東西に区分する。更に南北の中心で区分。建物強